

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第11号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行 東北風景写真家協会 〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-8-1 勾当台ビル1階 エーゼットフォト内 Tel 022-722-3755, Fax 022-722-3766 編集 秋葉・進藤

東北風景写真家協会 役員交代と事務局変更

今年二月十四日に開催された第四回総会において、今年度が役員改選の時期に当たりますが、当面は現役員にて運営し、もし変更がある場合は役員一任を依頼し、会員にはその旨通知することです。了承を得ました。今般、鈴木会長より体調が思わしくないため会長辞任と事務局の辞退申し出がありました。三役会及び役員会にて協議の結果、申し出を了解し、新会長に竹内正顧問が就任、事務局を丸山慎一事務局長が勤務するエーゼットフォトに変更することで決定いたしました。ここに本会報にて報告いたします。

鈴木登前会長には平成18年には足居時からの事業運営したいと思っております。今後ともよろしくお祈り申し上げます。宮内正新会長は平成18年から竹内新会長共々ご尽力頂き、10月18日に第一回総会を開催。東北風景写真家協会を正式に発足させ、協会の基礎を築かれて、以来4年に亘り組織の拡大と運営面での内容の充実を図るべく色々と指導を受けてまいりました。

一昨夏、罹病にて体調を崩され、療養を続けてまいりましたが復調せず、会長職退任を申し出ておられ、併せて事務局をお願ひしておりました東北カラーデュープ(株)も退社されることになりました。事務局の変更も要請がありました。

役員会にて諮った結果鈴木登前会長の辞任を了承。後任に竹内正顧問に引き受けて頂くことで了解頂き、また、新しい事務局は丸山慎一事務局長が勤務されているエーゼット・フォトにてお引き受け頂くことで了解を頂戴しました。竹内正新会長に付きま

鈴木登前会長 退任ご挨拶

竹内正新会長 就任ご挨拶

この度鈴木会長の辞任に伴い後任に推薦され立场上適当ではないと思っておりますが、当協会発起人の責任としてお引き受け致しました。殺伐とした世相から風景写真に癒しを求めている人々は多く、撮影ツアーの盛り況をみても頷けます。また失われつつある東北の美しい風景を記録して後世に残すことの大切さを日ごろから強く感じており、広く門戸を開いて賛同の方々の輪を広げる必要があると思っております。

今後組織力の強化を計りつつ、内容を充実させる必要があります。会員の皆様のご協力をいただき、目標に近づけるべく努力致しますのでよろしくお祈り申し上げます。

梅雨を活用した撮影 竹内 正会長

梅雨時は雨を避け、晴れます。最も簡単な方法、梅雨時の花は生き活れ間を選んで撮影に出掛はビニール袋。各自自治体きとして、しっとりとしける人が多いですが、実で指定されているゴミ袋は小雨そぼ降る梅雨時この活用です。その、「柔らかい光」「霧」「柔らかな光を生かした撮影」

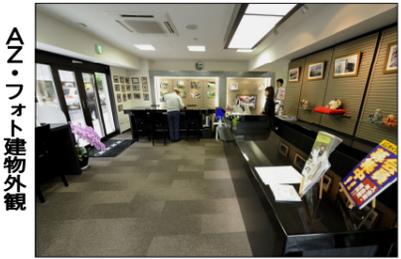
1.準備 人は合羽を着て傘を差して準備完了ですが、カメラ、レンズ、三脚等の必要な道具は、雨に濡れることにより、デジタルカメラが発売されて、葉の彩りは美しくなす。プラスチックに補正する

2.ポイント...露出不足に補正しましょう。ポイント...「ガス」に設定する。ポイント...水滴を強調するときはマイナス側に補正する。デジタルでは作画面意図に合わせて色温度を調整する。

3.濡れることで繊細なモニターが見やすいデジタルカメラが発売されて、葉の彩りは美しくなす。プラスチックに補正する

新事務局 エーゼット・フォト

所在地 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3丁目8-1 勾当台ビル1階 祝日18時迄・日曜定休 電話 72213755 FAX 72213766 平日・土曜 9:00~18:30 e-mail: s_maruyama@az-ltd.co.jp

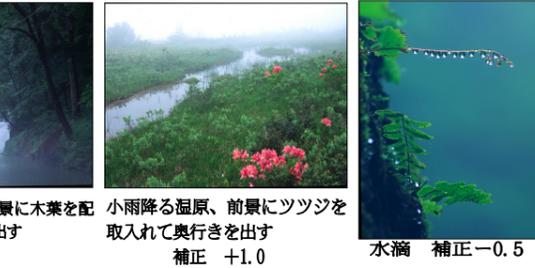


富士フィルムフォトサロン仙台 平成22年4月22日オープン

青葉区一番町の仙台第一生命タワービルにありまして一部負担が必要になりました。展示スペースは富士フィルム仙台ビル1Fロビーサロンと同様の扱いとなります。展示可能点数は(全紙換算)約24枚とのことです。今までは無料で借りられましたが、新スペースで

展示スペースは富士フィルム仙台ビル1Fロビーサロンと同様の扱いとなります。展示可能点数は(全紙換算)約24枚とのことです。今までは無料で借りられましたが、新スペースで

花菖蒲、紫陽花、露草等先ず花形、模様の良いものを選び、背景の空気感や他の花をボカして取り入れる



降雨の渓谷風景、前景に木葉を配して渓谷の雰囲気を出す 補正 +0.5 小雨降る温泉、前景にツツジを取入れて奥行きを出す 補正 +1.0 水滴 補正-0.5

お知らせ

★写真コンテスト入選者 第16回JPC全国写真展入選、「写真の日」記念写真2010入選・協賛会社賞 佐々木 康照 ★写真全国誌掲載作品 麗しの桜撮影ガイド 一本桜三百景(三栄書房) 渡邊 善夫「小岩井農場の一本桜」ほか4点 竹内 正「福寿寺の紅枝垂れ桜」ほか17点 ★新規入会会員紹介 宮城県仙台市 門間 弘直 ★会則の一部変更について 会長と事務局が東北カラーデュープ(株)からエーゼット・フォトに変更になりました。期日は6月1日からとします。また、副会長は2名となっておりますが、会のスムーズな運営のため暫定的に1名増員し、秋葉健一氏の就任をお願いしました。何れも次の総会に諮り、承認を得ることとなります。

★第2回撮影実習セミナー開催について 第1回は昨年11月に仙台市の勾当台公園と定禅寺通りの紅葉風景を中心に実施し、好評を得ました。次回開催の強い要望も出ておりましたので、本年も11月ごろ実施する予定でおります。前回はフィルムに限定しておりましたが、今回はフィルムとデジタル両方での撮影実習を進める予定でおります。詳細が決まり次第改めてご案内いたしますのでご期待ください。

森と沼 葛温泉周辺

葛温泉周辺のブナの森には大小六つの沼(葛六沼)が点在し、沼を巡る遊歩道(約三キロ)がある。この六沼とは離れている赤沼を加えて葛七沼とも言われている。

遊歩道は葛温泉を起点に沼から出る流れに沿っている。流れへの樹木の写り込みを入れて森の風情を表現したい。

葛沼へ至る道筋には見事なブナがあるが、いたずらでつけられた傷が目立ち残念でない。

最も大きな葛沼は絶好の撮影ポイントであり、フレミングを工夫して写そう。沼の南の方を登って



葛沼の南の方を登って

見事なブナやトチの木も目立ち、傾斜を利用して写すのも良い。

行くくと、右手に小さな鏡沼がある。樹木や苔むした倒木の写り込みなど特徴ある写真が撮れる。

影ポイントを取りにくい。これから先は山道の様相で、右には赤沼へ至る分岐もあるが、道は分りにくく薦められない。

左にまわりながらしばらくすると下の方に長沼が現れる。沼尻の水辺のあたりが撮影スポットである。

なお、赤沼へは、国道一〇三号線を酸ヶ湯方面へ向かうトンネルの手前、あるいは仙人橋手前に登り口がある。距離も長く急坂もある。山歩きの高準備をして出かけよう。(秋葉健一)

中判カメラに興味を持ったのは、現在青葉区一番町二丁目「ギヤラリーけやきの杜」を経営されておられる佐々木俊明氏が、中判のワイドカメラ(6×17フィルムサイズ)と6×7カメラでヒマラヤ山脈やポタラ宮殿等を撮影した、超特大作品を展示した富士フォトサロン仙台での写真展。その作品の色合いと写り方、解像度の凄さに吃驚し、感嘆！色々話を伺い、撮影機材も置いてありましたので触らせてもらいました。ワイドカ

メラは無理として、6×7判はペンタックス67のマウント部分を改造し、ハッセルブラッドのレンズをつけて撮影したもので、こちらなら何とかなるか？と密かに思いました。

このカメラは大阪のマツバラ光機が改造・販売したもので、問い合わせたところ現在休止中の返事。大阪に出掛けた折にマツバラ光機の松原社長に会い交渉しました。「マウントとミラーを削るため神経を使い、体

中判カメラ

初めて触れて、写してみよう

進藤 弘融

がぼろぼろになったので止めました」とのこと。諦めるしかありませんでした。しかしペンタックス645にハッセルブラッドのレンズを付けて撮影したウントリンクを付けば、色合いもきれいに見え、これならいい作品が写せると必要なのですが、つい思い出し、写す方に気が逸ってレバー操作を忘れ、シャッターを切ってしまうのです。全ての条件が合った時の写りは大満足なのですが、悩みは単焦点多用でのレンズの重さです。

写真展「黒板のない教室」などを通じて分校の保存を提唱し、東風季報にもご寄稿いただいた南正一会員が、田麦俣分校の保存会を立ち上げました。その概要を紹介いたします。

田麦俣分校 たにしの楽校

・私たちに、次世代に残したい大綱小学校旧田麦俣分校があります。心のふれあい・ぬくもりを大切に、学び舎に暖かい目を向けて下さる会員を募集します。

・人間形成の基本である学校が、これからの社会に「新たな命を得て」多くの人の輪をつくり、心のよどこ

写真美術館めぐり 秋山庄太郎 写真美術館

写真界の巨匠、秋山庄太郎氏は、人物、花の写真で特に著名です。風景写真にも深い造詣をお持ちで、花見山を桃源郷と称して紹介され、今日のにぎわいをもたらしています。

秋山氏は二〇〇三年に急逝(83歳)された。二〇〇七年に氏のアトリエを改装し、写真美術館として一般に開放されています。写真美術館は地下鉄表参道駅(出口A4)を出て、青山霊園方面への道筋にある(徒歩約七分)。館は一階から三階まで回りながら鑑賞できる。秋山氏の作品や愛用のカメラ、資料の展示や、種々の企画展示がなされています。三階では書籍の展示や絵葉書等の販売もしている。ここには喫茶コーナーがあり、休憩

して写真について語り合うことができます。館運営のコンセプトである「こころの休み時間」が感じられる和やかな雰囲気である。

写真美術館はここ南青山のみならず、秋山氏ゆかりの各地での写真展も企画しており、東北では盛岡、山形、福島での開催準備を進めている。花見山フォトコンテスト、米沢市写真文化賞、「花」写真コンテストにも協力しており、多くの方の応募を期待しています。秋山氏が生前から尽力されてきた写真での「社会貢献」も進めており、たとえば、東北大学病院緩和ケアセンターや福島県医療生協も作品の寄贈を受けております。(秋葉健一)



写真美術館の予定
 10.6.3~6.13 ポストカード作品の魅力
 10.5.26~6.13 秋山庄太郎写真美術館協会展
 開館水~日 10:30~16:30、700円
 6.14~9.30 整理のため休館
 10.1~12.12 (仮)女優展 金、土、日開館
<http://akizawa-shotaro.com>
 開館時間 水~日10:30~16:30、一般700円

写真...こんな話 あんな話 フィルムカメラも生きている その三

前回は、「フィルムカメラを手にする」と、一部に入れなければならぬと、考えを新たにしました。

私も仕事ではデジタルカメラを多用していません。ましてはフィルムカメラも作品創りにはフィルムカメラのテンポが心地良いし、写りの満足感が大きいのです。このころ、四〇年(五〇年前)のカメラにベルビアや100VSのフィルムを入れて歩いて見るとは稀になりました。五月某日、栃木県足利市にある「藤花」で有名な公園に行った時も、多くのカメラマンが押し寄せていました。九パーセント「デジタルカメラ」でした。今のカメラマンは傍若無人、礼儀知らずの典型でした。三脚を立ててじっくり絵作りをしているフィルムカメラマンの前に立ち止まる、三脚を立てる。撮影が終わっても退かない。今写した画像をモニターで確認する。その間、こちらにはじっと我慢の子でいる。昔はもっと、美を探究する心に礼節というものがあつた、と思います。気配りや心遣いです。写真講師をちょっとやって

願でしか動きません。でも昔のカメラは、たった一回のフィルム巻き上げ動作で撮影OKなのです。電池なんて要らないのです。今流行りの「エコ」そのものです。写真愛好家諸君、フィルムカメラを見直して、もっと熱い想いを写真にぶつけてみようではありませんか。(丸山慎一)

編集後記

創立当初から会の運営を担い、活動を軌道にのせてこられた鈴木前会長には感謝申し上げます。竹内正新会長のもと、会員一同力を合わせて、更なる発展を期待したいと思います。

会報は会員にとっての活動の柱であり、企画や広報、意見交換の場として有効に機能できるように心がけていきます。そのためにも、多くの会員のご寄稿をお願いします。

秋山庄太郎写真美術館を訪れた際には、上野館長に丁寧に説明いただきました。「写真芸術」に寄与し、「都会のオアシス」としての役割を果たしている様子を伺いました。さらに貴重な資料を頂戴し、厚く御礼申し上げます。